



## みんなの党を離党しました

昨年、12月11日にみんなの党本部に離党届を提出いたしました。

みんなの党公認でたくさんの方からご支援を頂きながら、任期の途中で離党することになったことは残念に思っています。

2009年の（みんなの党の前進である）国民運動隊の集会に参加して以来、私は、みんなの党の掲げる理念「脱官僚・地域主権・生活重視」に共感し、地方議員の立場で本日まで活動して参りました。

政治の素人だった私ですが、政治塾で様々なことを学ばせて頂き、県議になってからも、適切なご指導頂いた「みんなの党」には、感謝の気持ちでいっぱいです。

「誰とやるのではなく、何をやるか」「政局ではなく、政策」を掲げてきたみんなの党ですが、この一年は、党のガバナンスがどんどん失われていき、結党当時のみんなの党の理念とかけ離れて来たように私は感じました。

みんなの党を立ち上げた江田憲司衆議院議員が、離党会見で話された中に、私が離党に至った気持ちと全く同じ言葉がありましたので、引用させていただきます。

『みんなの党は自由闊達な議論、そして民主的な開かれた政党であったはずですが、しかし……』、私も2009年のみんなの党結党の原点にもう一度戻って、県議会議員としてこれからも活動していきたいと思い、離党を決意致しました。

そして、年末の本会議終了前日の夜、離党届を提出いたしました。

2011年5月に船出した「みんなの党神奈川県議会議員団」。無所属で2期目の菅原直敏議員（大和市選出）が16人目で合流して、8人が30歳代という若い県議団でした。フレッシュでパワー溢れ、神奈川県議会も、新しい力で何か変わるのでは？と期待して下さった県民の方々の声も聞かれました。

会派は別れましたが、今後も、切磋琢磨しながら、活動していきたいと思えます。



離党した後、新しい会派「かながわ無所属クラブ」を一緒に離党・離党した赤野たかし議員（横浜市青葉区選出）、城田学議員（横浜市緑区選出）の3人で立ち上げました。

離党・離党はしましたが、私の理念と政策は変わりません。今後は、今まで以上に、議員としての責務を果たしていきたいと思えます。

(2013/12/11 県庁で横浜市議10名と共に離党会見を行いました)



## 今後の活動について

### ①無所属の立場で活動します。

横須賀市には、「みんなの党」の市議会議員がない為、県議になった当初、横須賀市内の情報が入ってこない状況でした。そこで、市内の催し物等で一緒になった市議の方々と情報交換を重ねて来ました。

今回、無所属の立場で活動することを決めたのは、以下の理由からです。地方議員は地域に密着して、市民、県民のみなさんの声を行政に届けるのが仕事です。今回のような党本部の動きによって、その仕事に支障をきたしてはならない、「政局よりも政策に専念したい」と考えたからです。

昨年6月に吉田雄人市長が二期目の当選を果たされた際に、「市と県がしっかりと手を組んで『選ばれるまち横須賀』を実現させよう！」と固い約束をしました。

その一例として、12月の県議会本会議一般質問で、吉田市長が推進する『三浦半島サミット』などを紹介し、三浦半島の活性化について質問したところ、黒岩知事から、前向きな答弁を頂きました。

私は今年から、**無所属の立場で、市民や県民の声を、県政に届ける為に活動をしていきたい**と思っています。



### ②党籍は持つ。その意味について

昨年12月18日、江田憲司衆議院議員を代表に「結いの党」が結成されました。江田さんは、官僚として橋本内閣時代に総理大臣秘書官を務めた方で、官僚と政治家の両方の立場をよく理解していらっしゃいます。

私は、政治塾で江田さんから様々な事を教わりました。先日、その江田さんから「政策本位で過去にとらわれず、幅広い結集を呼びかける」との報告が、神奈川県内の地方議員を集めて行われました。その時に今後は党を越えて、地方議員の勉強会と情報交換を行っていく予定、それも全国で！という提案がありました。

党派を越えた勉強会&情報交換会。これに積極的に参加し、議員としての資質を向上させたいと考え、この勉強会のために党籍を持つ事にしました。

「結いの党」は触媒政党と公言している党で、今後、どのような形で推移して行くかは未知数ですので、公認や推薦については、選挙が近づいたら改めて考えたいと思います。

という事で、安川有里は、無所属の立場で活動して参ります。